

## 領域 10 インフォーマルミーティング議事録

【司会進行】 田中 真悟(領域代表) 【書記】 橋本 由介(連絡委員)

【日時】 2023年3月24日(金)18:00-19:00

【会場】 オンライン(Zoom)

【出席者】 17名(田中(真)、是枝、橋本、櫻井、藤原、末次、友田、石田、Voegeli、竹下、斉藤、小泉、山本、杉野、木村、三原、松下(順不同・敬称略))

### 1. 領域委員会報告

2022/11/25にオンライン開催された領域委員会に関する報告がなされた。

- 大会開催方法についての報告
  - 2023年春はフルオンライン、秋は年会を現地開催(東北大)。
  - 2022年秋季大会終了後のアンケート結果
    - ◇ 次回現地開催での「オンライン配信の有無」や、それに伴う「参加費の値上げ」に関する希望調査の結果、意見の過半数が「参加費据え置き」を希望
- 春季大会での企画講演・シンポジウム等の審議
  - シンポ(領域10主体) 0件
  - シンポ(共催) 4件
  - 若手奨励賞記念講演 2件
  - 企画講演(米沢賞受賞記念講演) 0件
  - チュートリアル講演(共催) 0件
  - 招待講演(共催) 1
    - ※ 3時間30分を超えるシンポジウムは、3時間30分以内に調整するか、提案書に理由書を附してもらうことについても再確認された
- その他
  - オンライン開催におけるポスターセッションの在り方について
    - ◇ 一度件数が減ったが増加傾向、現在の方法でもできそうな感じ
    - ◇ 夜間は避けてほしい
    - ◇ 件数が減って以降、件数が戻っていない
  - プログラム編集の効率化に関する意見交換(領域11から)
    - ◇ 領域委員間の円滑なコミュニケーションツールと、プログラム編集時にリ

アルタイムで領域間で調整できる相互編集ツールの導入希望があった  
(委員長) 現状の参加費では導入できるサービスには限界がある

- 講演英語化の提案(委員長から)
  - ◇ オンライン方式が浸透したので、1 件でも英語講演を含むシンポジウムの全講演を英語化出来ないか
- 上記の議題 3 点、「オンライン時のポスターセッションの在り方」「プログラム編集の効率化」「英語講演を含むシンポジウムの全講演の英語化」に関して、領域インフォーマルミーティング等で議論
  - 特段の意見はなし

## 2. 各賞の推薦依頼状況等

- 若手奨励賞の受賞者についての報告がなされた。
  - 受賞者: 2名
  - 梅垣 いづみ 殿 (KEK)、小野 頌太 殿(岐阜大)  
<https://www.jps.or.jp/activities/awards/jusyosya/wakate2023.php#r10>
    - ◇ 10月の理事会で決定し、領域代表を通じて受賞者へ通知
    - ◇ 本大会で若手奨励賞受賞記念講演を実施した(3/22)
    - ◇ 大会終了後に賞状が送付される予定
  - 領域10から推薦できる各賞(論文賞、若手奨励賞、学生優秀発表賞、米沢富美子記念賞、等)については、積極的な応募の要請がなされた。

## 3. 学生優秀発表賞について

- 2022年秋季大会において、対象者に対して審査委員会で厳正な審査をした結果により、受賞候補者を理事会に推薦し、全員受理された。
  - 受賞者: 6名 (申請者13名)  
川村 聡太 殿(奈良先端大)、山川 昂大 殿(名工大)、  
橋本 友次郎 殿(名大)、斎藤 興也 殿(東北大)、  
堀川 恭平 殿(関西学院大)、YaJun Li 殿(岡山大)  
[https://www.jps.or.jp/activities/awards/gakusei/2022\\_student\\_presentation\\_award.php#r10](https://www.jps.or.jp/activities/awards/gakusei/2022_student_presentation_award.php#r10)

#### 4. 代表・副代表・運営委員

- 2023 年度の代表・副代表と次期運営委員・連絡委員が確認された。
  - 領域代表より、2024 年度副代表はフォノン分科から推薦頂きたい旨の連絡があった。
- 次々期(2023.10-)運営委員として、下記の候補者が推薦・承認された。
  - 電子線： 中島 宏 殿(大阪公立大学) (九大・斉藤殿よりご紹介)
  - フォノン： 浅野 元紀 殿(NTT 物性科学基礎研) (京大・末次殿よりご紹介)
- 次期代議員として、下記メンバーが領域から推薦され、理事会で承認された。
  - 黒岩 芳弘 殿(広島大学)、吉矢 真人 殿(大阪大学)、  
湊 丈俊 殿(分子研)、田中 真悟(産総研)

#### 5. 各種データ

- 概要提出率、若手奨励賞受賞者数、学会開催地が報告された。
  - 概要提出率： 領域 10 は 97.2%、72 件中 70 件提出
    - ◇ 次回以降も、提出率 100%を目指したい
  - 若手奨励賞受賞者数： 上限2名、現状維持
  - 学会開催地： 2023 年秋は、東北大学・青葉山キャンパス、川内キャンパス(9/16(土)-19(火))で現地開催の予定

#### 6. その他

- 学生優秀発表賞の審査に関する座長コメントの依頼(継続審議)
  - ハイブリッド開催など座長の負担も加味し前回はお願いせず
    - 今回は任意での提出(会期中)を依頼
  - コロナ禍以前の状況についての質問あり
    - ◇ 会場にて紙ベースでの依頼・提出の要請、メール提出要請等
  - その後以下のような議論があった。
    - ◇ 今回同様に任意提出でも良いのでは
    - ◇ 審査対象者が増えた場合の座長の負担も考慮した方が良いのでは
    - ◇ 学生をエンカレッジする目的の賞であるため、特筆すべき点について任意で依頼し、ポジティブな意見を頂くのが良いのでは
    - ◇ 今回有意義なコメントがあったので、任意で頂くのが良いのでは

- 以上の議論を受けて、次回運用については、次期領域代表に一任することとした。
- 連絡委員の任期について(継続審議)
  - 引継ぎ期間も考慮して、半年+1ヶ月とするのも良いのでは、という意見があったが、次期は以下の方法で行うこととした。
    - ◇ 引継ぎ資料が共有フォルダにセットされているので、新旧連絡委員で共有する
    - ◇ Zoom やメールベースで引継ぎ
    - ◇ 連絡委員の仕事として、ML 運用、HP 編集、Slack 運用(学会プログラム編集等)、学会事務局からの連絡事項の共有作業、等を行う
- 学会オンライン発表方法の周知について(特に英語版)
  - コロナ禍により、ハイブリッド開催となった際に、口頭発表については、直前までオンサイト/オンラインが決まらない状況があったため、混乱を招く要因となっていた。
  - 今回はフルオンラインということもあり、特段の混乱はない模様であった。
  - 日本語版と英語版で周知情報が異なる点を改善した方が良いのではという意見があった。
    - ◇ 領域代表より、周知メールなどに和文/英文を両方記載する等の対策が必要ではないか、とコメント。事務局に提案することとした。
- 発表スライドの英語化について
  - 領域10では、現状スライドの英語化は任意
  - X線分科IMでの意見として、以下の様なものがあった
    - ◇ 学生・指導教員の負担増
    - ◇ スライドと口頭説明・専門用語との整合性低下を懸念
    - ◇ 重要な点を英語で補足・コメントを入れる
- ポスターセッションでのリンク不具合の報告
  - Google カレンダーに取り込んだリンクが、該当セッションのプログラムにアクセスしない現象があった
    - ◇ 事象については、領域代表より学会に報告
- 次回大会でのシンポジウム提案
  - JASRI・櫻井様より、コンプトン散乱発見100周年記念のシンポジウム提案の説明があった。

- ◇ 領域代表より、内容を確認し、是非推薦したい旨の意見があった
- ◇ 異議なしで、領域 10 を主として提案する事が承認された
- その他
  - ミュオン分科より ML の運用に関して、管理内容の確認依頼があった。
  - ◇ 連絡委員が後日メールで情報共有を行う

以上